



組織名

岡山県中小企業家同友会 障害者問題委員会

組織概要

中小企業家同友会は、全国約4万8千人が加入する経営者団体です。岡山同友会には約550人が所属し、経験交流と経営実践を通じて中小企業の発展と地域経済の繁栄を目指しています。2009年には会内に障害者問題委員会を設置し、各社の事業活動を通じて障害者を取り巻く様々な社会的問題の解決を目指して学びを深めています。

障害者問題委員会 の主な活動

- 就労困難者の雇用に関する学習会の開催
- 中小企業・行政・教育機関・支援機関等による意見交換会の開催（写真）
- 会員企業を対象にした障害者雇用に関するアンケート・調査の実施
- 特別支援学校の見学会・・・・・・・・・・・・・・・・・・など多数

会員企業の 雇用状況

会員企業を対象にしたアンケート調査（25年12月～26年1月）によると、回答者の約28%が「現在、障害者の雇用もしくは実習の受け入れをしている」と答え、また約45%が「将来的に検討したい」と答えています。一方、障害者雇用の課題として「安全性の確保」「設備や就業環境の整備」「社員の理解」「担当してもらう仕事の創出」などの回答も寄せられました。この結果を踏まえて委員会では、各障害の特性を理解するための学習会や支援学校の見学、公的機関の支援サービスに関する学習などの場を設け、中小企業の啓発に取り組んでいます。

学習会や懇談会 の参加者の感想

「障害者雇用に必要な知識を得ることができた。社員と一緒に見識を高めるよう努力します」
「企業、行政、支援機関、教育機関が一堂に会して話し合える場は貴重。今後も継続的に参加したい」
「組織は違っても課題や悩みは重なる部分が多く、このような交流と連携を通じて解決のきっかけが掴めると思った」
「業種も立場も違う人が意見を出し合うことでお互いの理解を深められた」
「困った時の相談先や障害の特性など、私たちがもっと多くを知ることによって社会から障害を無くすことができると感じた」

会員経営者の声

「支援学校の実習で、接客や清掃、備品の片付けなどをお願いしました。実習を受け入れたことで、普段のスタッフ同士の声掛けや協力体制のあり方、職場の整理整頓などを考え直すきっかけになりました。それまで『障害者雇用は難しい』と勝手に思い込んでいましたが、根本から認識を改めることができました」
「製品の部品の仕分けやパッケージングなどを就労継続支援B型事業所をお願いしています。雇用も進めており、当社の仕事を任せられる戦力として活躍してくれています。障害の有無にかかわらず誰にとっても働きやすい職場づくりを推進することで、会社の仕組みづくり、業務の効率化が進んでいます。障害者雇用には中小企業の力が欠かせません。様々な繋がりを作って、障害者雇用に関わっていこうと思っています。」